

公共事業再評価調書(再々評価)

主管課：都市計画・モルール課

1 事業概要	事業名：首里城公園整備事業		前再評価年度：平成14年度	
	事業種別：都市公園事業	事業主体：沖縄県	(S62~H23)	
	事業箇所：那覇市	根拠法令：都市計画法	事業期間：S62~H24	
	(25,460)	総事業費(百万円)：23,600	費用内訳：補助1/2	(13.8ha) 事業量：13.8ha
(整備目的)	県民の歴史・文化に対する関心の高まりや、余暇利用の多様化に伴い、風格ある歴史的環境を創出し、歴史・文化の拠点として、県民の利用はもとより沖縄観光の中核拠点として整備する。			
1-2 前再評価以降の計画変更	平成15年度に県立博物館の移転計画が具体化した。			
2 再評価 該当項目	<input type="checkbox"/> ① 事業着手から10年を経過 <input type="checkbox"/> ② 事業着手から5年以内の工事未着手 <input checked="" type="checkbox"/> ③ 再評価後一定期間(5年)を経過 <input type="checkbox"/> ④ 事業の中止			
3 再評価に至った主要因 (具体的理由)	<input type="checkbox"/> ① 用地取得等の困難 <input type="checkbox"/> ② 調査・設計の困難 <input type="checkbox"/> ③ 事業の拡大 <input type="checkbox"/> ④ 予算の確保 <input type="checkbox"/> ⑤ 手続き・法令の問題 <input checked="" type="checkbox"/> ⑥ 他事業との関係 <input type="checkbox"/> ⑦ 整備効果の問題 <input checked="" type="checkbox"/> ⑧ 当初計画が長期間 <input type="checkbox"/> ⑨ その他()			
4 事業の進捗状況 (H19.3月時点)	項目	事業費(百万円)	整備率(ha)	用地取得(ha)
	計画	23,600	13.8	13.8
	実施済	14,424	9.1	13.6
	率	61%	66%	99%
4-2 前再評価以降の主な進捗	首里城城郭の南北の園路が整備され、各エリアを周遊することが可能となった。			
5 事業効果の評価指標 (基準年H19) (検討年50年) (単位:百万円)	①直接便益(旅行費用価値)	313,248	① 用地費	8,000
	②間接便益(環境、防災)	74,509	② 施設整備費	15,560
	総便益	387,757	③ 維持管理費	10,202
	基準年換算(B)	276,462	総費用	33,762
	費用便益比(B/C) = 276462 / 40088 = 6.9		基準年換算(C)	40,088
6 事業を巡る状況の変化 (前再評価以降)	① 社会・経済：平成14年度～平成18年度までの5年間、沖縄県の入域観光客数が毎年増加し、平成18年度は過去最高の564万人を記録した。首里城公園の来園者数についても、平成18年度は過去最高の267万人を記録した。 ② 自然・文化：平成18年度に「日本の歴史公園100選」に選ばれている。 ③ 地元・自治体：りゅうたん通り商興会によるモルール首里駅から首里城公園までのプランター設置活動や、蝶を飛ばそう会による食草の植栽活動など、住民参加による公園や公園周辺の美化活動が活発化した。また、龍潭通り沿いの民家は首里城とマッチする赤瓦を使用するなど、地元の協力による景観が形成されている。 ④ 利害関係者：補償交渉が難航している地権者がいる。			
7 事業の必要性や効率性	① 事業の必要性・緊急性・有効性など： 琉球王府を偲ぶ首里城公園を整備する上で重要な施設である博物館跡地(中城御殿跡地)整備や真珠道整備などが残っており、着実に整備することが求められている。これらの整備を推進することにより観光客を含む来園者の利便性の向上、歴史学習の機会の推進を計る必要がある。 ② 事業の効率性(代替案等の可能性) 進捗は66%であり、国営沖縄記念公園(首里城地区)と連携して現計画を推進することが効率的である。 ③ 事業効果の発現状況： 整備済み箇所には県内外より多くの来園者が訪れている。			
8 今後の対応方針・見通し	① 事業計画等：事業期間を延伸し平成24年度には整備完了し供用を目指す。 ② 対住民関係：引き続き補償交渉を進める。 ③ 執行体制等：現在の組織体制で計画通り執行は可能である。			
9 対応方針	<input checked="" type="checkbox"/> ① 事業継続(現計画) <input type="checkbox"/> ② 事業継続(見直し) <input type="checkbox"/> ③ 事業の中止			
10 その他 (前再評価での主な意見等)	・歴史的地域の公園整備は、歴史誤認がないよう素材やグレードを変え、古い物と新しい物が判別できる施設整備を行う必要がある。 ・擬木は止め、コンクリートなどについても、その素材を生かした本物志向の整備を行ってほしい。 ・公園整備は長期となる事業であり、常に見直しが求められるため、見直しには適切に対処して欲しい。			

* 1事業概要の上段()は前再評価時点の計画